エッチュウバイの資源管理に関する研究

（第２県土水産資源調査）

栗田　守人・内田　浩

１．研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、ばいかご漁業全体の調査結果については、後述する令和２年の漁況に記載した。

２．研究方法

(1)　漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向および漁場利用について検討を行った。

(2)　資源生態調査

漁業協同組合ＪＦしまね久手出張所および仁摩出張所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から殻高組成を推定した。

３．研究結果

(1)　漁業実態調査

令和２年のばいかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は 58.5 トン（前年比 84%）、水揚げ金額は 2,961 万円（前年比 82%）であり、前年に比べ減少した。また、平年（過去 10 年）との比較では、漁獲量で 91%、水揚げ金額では 95%に減少した。漁獲量・水揚げ金額ともに減少した理由は、新型コロナウイルス感染症の影響による販売低迷を見越して操業日数を自主的に減らしたことによるものと考えられた。

漁場は、江津沖から島根半島沖の水深 190～210ｍの範囲に集中しており、近年はほぼ同様の範囲で操業している。

平均価格は 506 円/kg、平年比 98%であった。平均価格は平成２年に 800 円/kg を超えたが、それ以降低下傾向を示し平成 22 年には 329 円/kg で過去最低となった。平成 23 年からは増加に転じ、平成 27 年以降 500 円/kg 台で推移している。

銘柄は特大、大、中大、中、小及び豆の６銘柄である。小型銘柄の価格が高い傾向があり、小は 683 円/kg、豆は 804 円/kg であった。

(2)　資源生態調査

資源状態の指標となる 1 航海当たりの漁獲量（CPUE）は 886kg、平年比 138%であった。平成元年以降、過去最高であった令和元年度（1 航海当たりの漁獲量 906kg）に次ぐ CPUE であった。1 航海当たりの漁獲個数は 16 千個で平年比 119%であった（図 1）。近年は CPUE および漁獲個数ともに平年を上回り、資源は高水準にあると考えられる。

漁獲物の殻高は 40～124mm の範囲にあり、平成 28 年以降 40～80mm が平年に比べて増加傾向を示していた。しかし、令和元年からは逆に低下傾向となり令和２年度も同様の傾向が見られた。小型群の減少は将来の資源低下に繋がるため、今後の資源動向については注意が必要である。

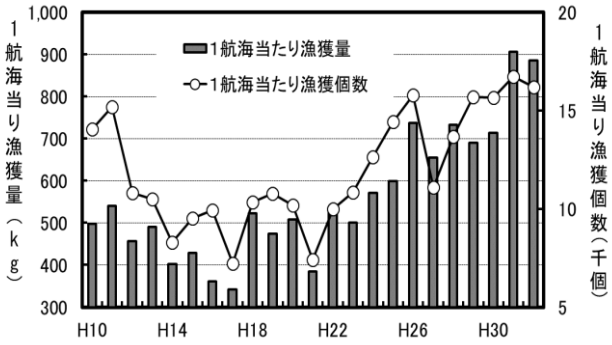

図１　１航海当たりの漁獲量および漁獲個数

４．研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい籠漁業部会で報告した。調査結果は同部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限の設定などの資源管理が行われている。